

「学校企画実施計画書」

岐阜県羽島郡川島町立川島小学校

1. 企画テーマ名称

河川実験施設と連携した河川に関する学習に関する動画コンテンツの開発
～「ふるさと川島」を伝える総合学習の時間での実践を通して～

2. 研究対象学年・科目

学年：4年生

科目：総合的な学習の時間

3. 実施計画

(1) スケジュール

6月～7月 教材作りの計画

- ・内容の洗い出し
- ・方法の検討
- ・研究会の発足
- ・コンテンツ素材あつめ
- ・児童の実態を知るアンケートの実施

授業を核にした川島町への関心作り<授業作り>

- ・町理解
- ・環境への意欲付け

<単元計画 第1次>

7月～8月 教材作り

- ・学習方法や内容の理解を助けるために、Web上にコンテンツを準備する。
- ・魚の体の観察から、興味を持った部分から環境を考えることができる教材。

9月～11月 実践

- ・木曽川の自然を調べる一環で、実践する。

<第2次ユニット2>

- ・共生センターでの体験活動を核に行う。その上で、Web上のコンテンツで課題解決を行う。

12月～1月 評価とまとめ

- ・ユニット終了後、アンケートによる評価を行う。

(2) 活動計画

4年 総合的な学習の時間 活動計画			
ねらい 外国人の人々との交流を通して、川島町の自然や人々のくらしの様子について深く理解することができる。			
			ねらい 学習活動
一次	1 4 5 7	木曾川に行ってみよう<7>	木曾川についての課題を見つけることができる。 見学を通して、気付いたことをまとめることができる。 木曾川について気付いたことをまとめて見つけたことを交流して広める。
	8 9 10	ローラ先生と交流してみよう	AETのローラ先生との交流計画を立てる。 流学習の計画を立てる。川島町を紹介しようとする。 ローラ先生との学習を通して、町のことを伝えようという意欲を持つことができる。
	11 12		地図作りへの課題を持つことができる。 お客さんにわかる地図づくりを進めることができる。 紹介したい場所やものを考えることができる。
	16 25 26 40 41 57	川島町のことを、多くの人にわかるように伝えよう<45>	ユニット<13> 川島町地図づくりを通して、川島の特長を伝えようとする。 ユニット<15> 木曾川の生き物や植物について現状をとらえることができる。 ユニット<17> 外国人の人や地域の人に調べてまとめた地図を説明し、改善方向を考える。
	58 75	川島ガイドマップ作り発表会を開催しよう<18>	外国人の人にも川島の人にもわかるガイドマップを作成し、発表会を開くことができる。
			調べたいことに沿って、行ったり本を借りたりして調べる。 調べたことを地図にまとめることができる。 生き物、植物の現状をまとめる。 現状を改善する方向を考える。 調べたことを地図にまとめることができる。 調べたことを地図にまとめる。 調べたことを地図にまとめる。 調べたことを地図にまとめる。

(3) 教材を使った指導計画

第2次 ユニット2 全15時間		
木曾川の生き物や植物について現状をとらえることができる。		
	めあて	主な学習活動
1 2	木曾川の生き物や植物について調べたいことを見つける	川島町の生き物を思い起こす どんな生き物や植物がどこにあるのかまとめる 疑問を出し合い、解決の方法を考える
3 6	自然共生研究センターの実験河川での生き物調査を通して、魚の体に興味を持つことができる。	魚の捕獲調査を行う 魚を詳しく観察して、疑問を出し合う 詳しく調べたい部分を見つけ、課題にする
7 9	魚の体で興味を持った部分の働き等詳しく調べる	課題に沿って、Web上のコンテンツを活用して学習を進める 体の部分の働きと環境との関連があることに気づく 魚の住んでいた環境を調べようという意欲を持つ
7 9	魚の体と住んでいる場所の環境を比べることができる	魚の体の部分と関係の深い環境調査を行う 環境調査の結果をまとめ、魚の体の様子と比べる。
10 12	調べたことをもとに、木曾川の生き物の住んでいる環境をまとめる	調査からわかった木曾川の様子をまとめる わかったことを交流し、地図にまとめることができる。
13 15	環境を守るためにできることを考え、行動する。	川島町を守るためにできることを考え、行動する

ユニット全体で、Web上の教材を活用して自主学習をする場を設ける。自学でわかったことをもとに授業で意見交流を行う。

(4) 教材について

次のような内容で、教材コンテンツを作成予定。コンテンツは、動画で示し、15秒～30秒のものとする。

これらを、学習活動に沿って関連づけ、リンクをつなげていく。環境は、地域によって変わってくるので、条件を設定することで、必要なコンテンツを選択し、並べ替えることができるようにしたい。

学習活動は、次のように考える。

1			
魚をとって観察しよう			
2			
魚の体に注目してみよう			
3 1	3-2	3-3	3-4
えらの働きをみてみよう	うろこの働きをみてみよう	口の働きをみてみよう	側線の働きをみてみよう
4			
魚のすんでいる環境をまとめよう			

この学習活動に沿って、右のコンテンツを組み合わせ、自学できるコンテンツの作成を行う。

1. 調査方法生物	
1	1 魚の扱い方
1	2 水生昆虫の調査
1	3 魚の見方
1	4 魚の調査
1	5 調査に必要な道具
1	6 サイズ測定
1	7 魚の分け方
2. 魚の体の動き・構造	
2	1 魚の食べ物
2	2 魚の体の部分の名称(図解)
2	3 うろこの働き
2	4 えらの働き
2	5 魚の産卵行動<ワンド・水際>
3. 生物とすみか	
3	1 魚の産卵行動<ワンド・水際>
3	2 河床の様子と生き物
3	3 水際の植物の役割
3	4 魚のすみか<瀬と淵>
3	5 水の流れと生き物
4. 調査方法化学	
4	1 魚のすみかと水温
4	2 水の汚れ<透明度>
4	3 調査に必要な道具
4	4 水質調査<pH>
4	5 水質調査<BOD>
5. 調査方法物理地学	
5	1 水の流れの測定
5	2 水位
5	3 調査に必要な道具

(5) その他

学習効果の比較を行うため、コンテンツ利用をする集団と利用しない集団を作り、効果を検証する。

共生センターに出かけて学習することを基本としたコンテンツを作成するが、出かけることができない地域での効果を探るようにする。

共生センターの保有する素材の提供をしていただき、共同で動画コンテンツを作る。